

世界経済の展開

福本 智之 CMA

目 次

1. はじめに
2. 世界経済の概要
3. 地域別にみた経済の動向
4. 世界経済をめぐるリスク

1. はじめに

本日（2021年3月29日）付で国際局長を退任するので、これが国際局長としての最後の仕事である。2006年に日本証券アナリスト協会の検定会員になったが、これまで当協会にあまり貢献できなかったもので、今回、こうした機会をいただき大変うれしく思っている。講演のポイントは3点である。

第一に、世界経済は、一部で新型コロナウイルス感染症の再拡大の影響はあるものの、全体としては持ち直しており、今後も改善が見込まれることである。こうした最近の世界経済の上振れは、特に米国で大規模な追加経済対策が打ち出されているほか、ワクチン接種が米国を中心にかなり進み、その有効性がそれなりに高いことが分かってきたことが背景にある。

第二に、地域別にはかなりばらつきがあることである。2021年の世界経済は、中国と米国が回復を牽引するとみている。中国は2020年にいち早く立ち直り、すでに順調な回復軌道をたどっているほか、米国も2021年は力強く回復していくとみている。これに対し欧州は、まだ足元でも感染の状況が深刻で公衆衛生上の強い措置をとっていることから、景気回復は遅れている。また、新興国はワクチンが先進国並みには普及しないことや財政の後押しが弱いことから、持ち直しの力はやや弱い。

第三に、リスクは、ひと頃に比べると若干低下したと思うが、依然として大きいことである。以前は下振れリスクばかり言われていたが、最近の特徴は、上振れリスクにも注意が必要なことだ。特に米国では、大規模な財政政策が打たれたことやワクチン接種の進展により、今後、仮に家計の



福本 智之（ふくもと ともゆき）

前・日本銀行国際局長。1989年京都大学法学部卒業。同年、日本銀行入行、2010年国際局総務課長、2011年国際局参事役、2012年北京事務所長、2015年北九州支店長、2017年国際局審議役（アジア関係総括）、2020年国際局長、2021年3月末日本銀行退職。同年4月大阪経済大学経済学部教授。

（本稿は2021年3月29日に日本証券アナリスト協会にて収録した講演会の要旨である。）